

# ICT ニュース 2023/6 月号

2023/6/13 発行 ICT/感染管理委員会

新型コロナウイルス感染症は、2023年5月8日に感染症分類の位置づけが「5類」に変更になり1か月が経過しました。インフルエンザ流行も長期化しており、コロナの感染者数も増えているため、まだまだ安心できません。

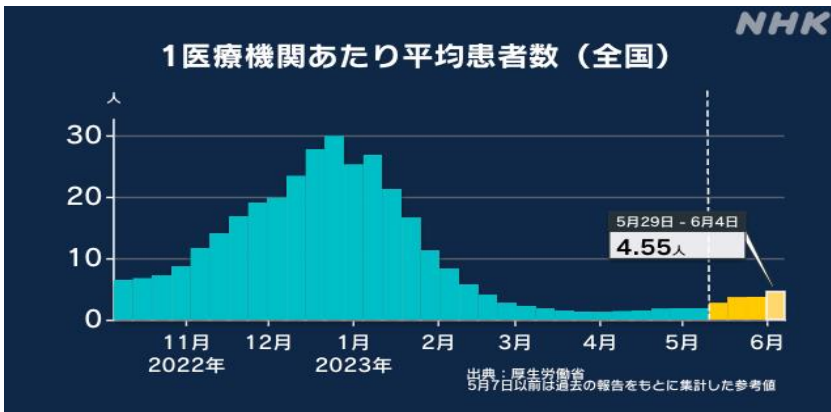
当院面会の緩和においては、トラブルもなく運用されており、安心しています。

今後も皆さん一人ひとりのご理解とご協力が必要ですので、宜しくお願いします。



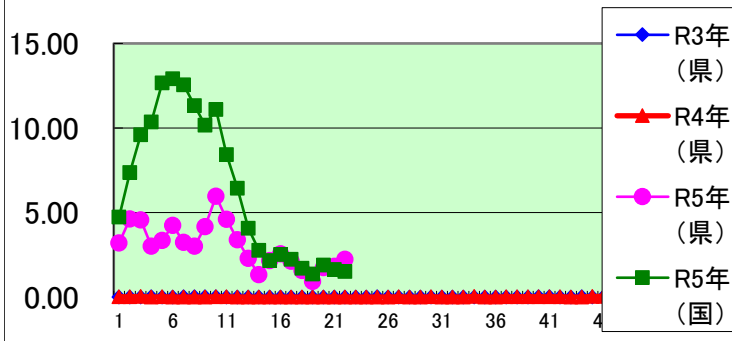
## ●コロナ感染症とインフルエンザ感染状況(5/29～6/4)

### コロナ感染症(全国)

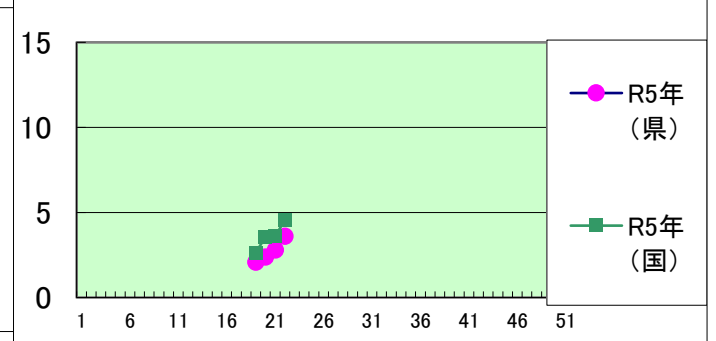


全国的に、流行が続いており、県外へ出かける場合にも注意が必要です。インフルエンザ罹患者は、10歳未満の感染者が約54%、20歳未満の感染者が約80%を占めており、若年層を中心とした流行となっています。これは、コロナ禍の間にインフルエンザが流行しなかったため、インフルエンザに対する免疫が無いことと、感染が広まっていなかったことで、予防接種も十分ではないということで免疫力が低下している中、マスクをしない生活が始まったためと考えられています。

### インフルエンザ(静岡県内)



### 新型コロナウイルス感染症(静岡県内)



## ●梅毒が増加しています

### 【STS法とTPHP法(FTA-ABS法)の組み合わせによる解釈】

STS法	TPHA または FTA-ABS	結果の解釈	備考
(-)	(-)	・非梅毒 ・梅毒感染初期(初めの2～3週間、稀*1)	・感染初期が疑われる場合は2～3週間後に再検査→陰性なら感染なし、陽性なら感染ありと判断 ・FTA-ABS法を実施(確認検査)
(+)	(-)	・生物学的偽陽性(BFP) ・梅毒感染初期	
(+)	(+)	・梅毒(第1～3期) ・梅毒治療後の抗体保有者(STS低値が多い)	・脳神経系や心血管系などに梅毒病変があっても、古いものや高齢者では抗体価低値のことも多い
(-)	(+)	・梅毒治療後の抗体保有者 ・トレポネーマ抗原系の偽陽性*2(稀)	

5月になり毎週120件以上発生しており、今回(5/29～6/4)は前年同期比1.40倍の増加となりました。

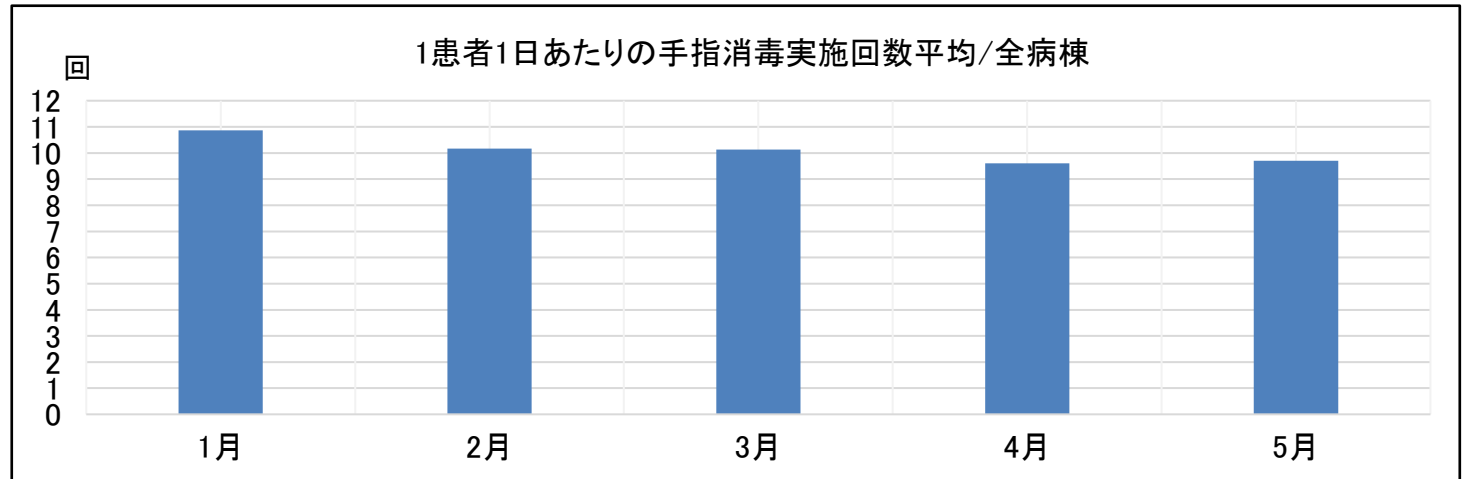
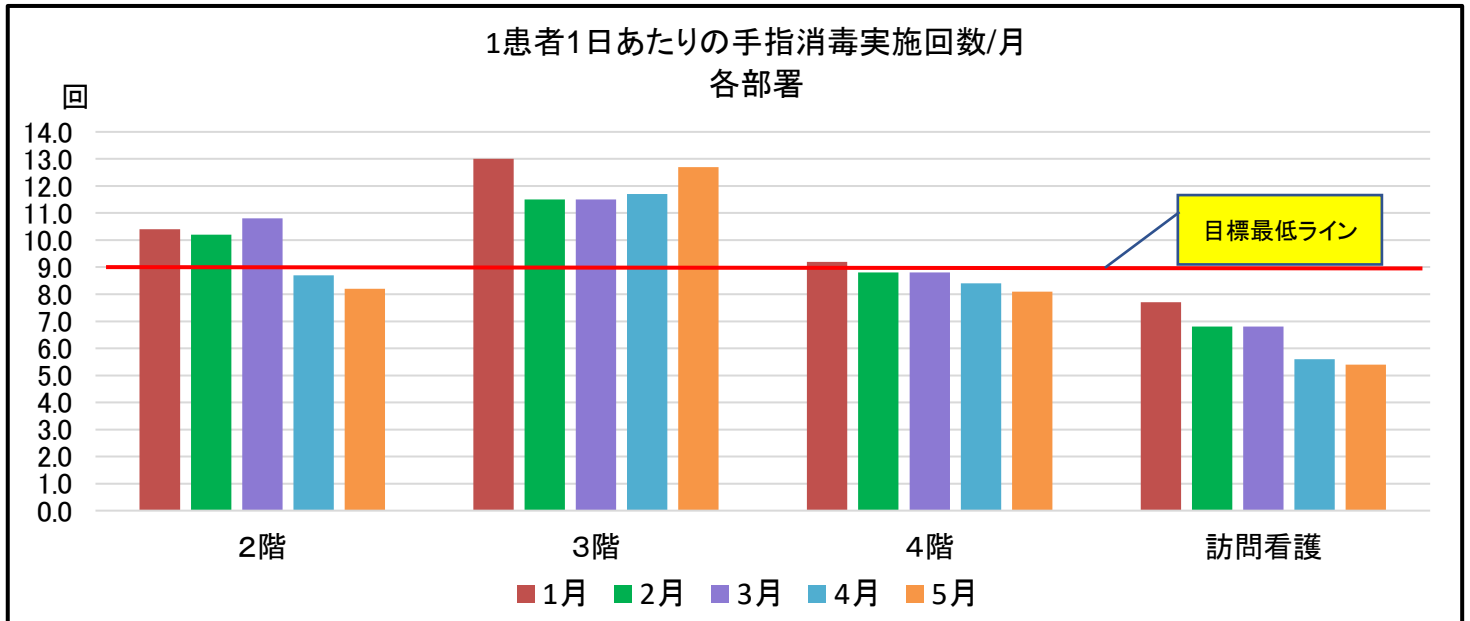
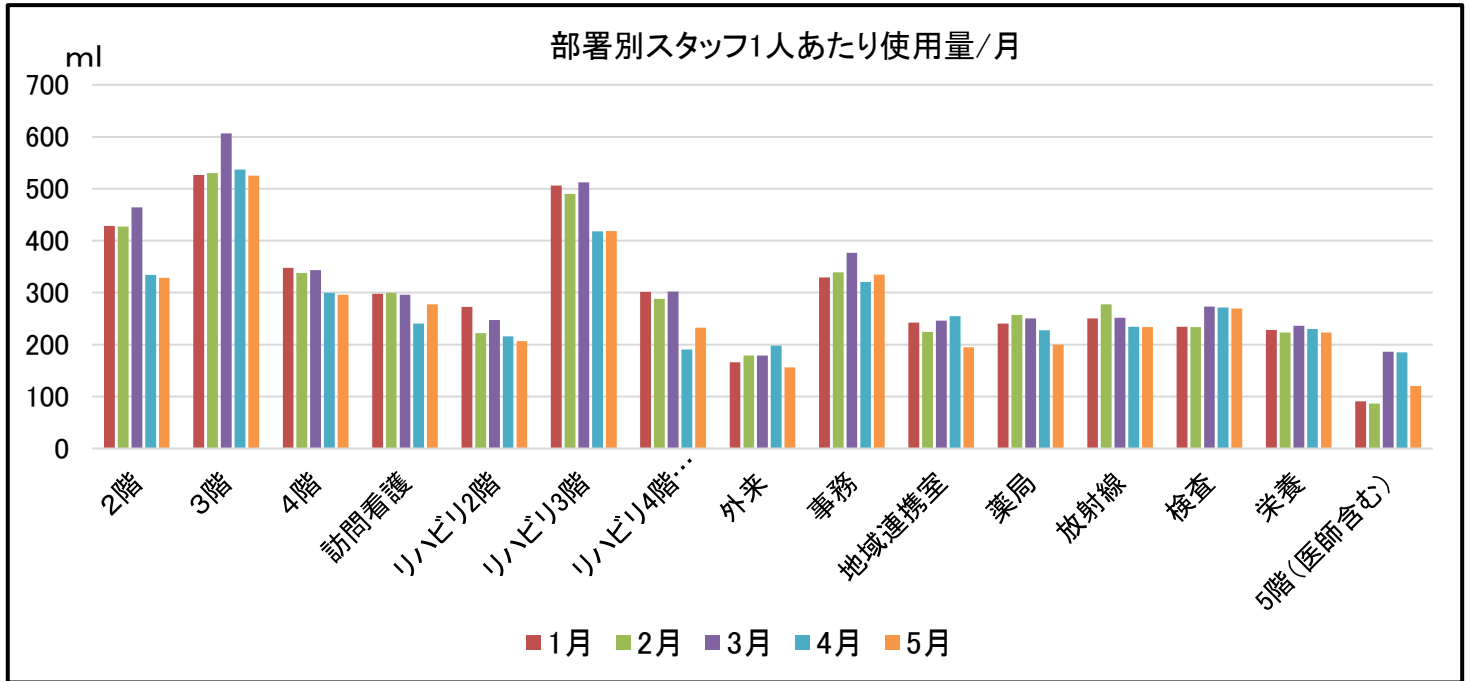
梅毒トレポネーマという細菌に感染することで発症します。

皮膚や粘膜から体内に侵入し数時間でリンパ節に達し、そこから血液を巡って全身に広がっていきます。感染者と皮膚や粘膜で接触することで、細菌が侵入して感染していきます。症状は感染から4期に分けて現れます。梅毒の症状は一時的に消失することがありますが、自然治癒することはないので、ペニシリンという抗菌薬を用いて治療を行います。

\*1 現在の検査精度での偽陰性は極めて稀

\*2 トリポネーマ性歯槽膿漏・結膜炎

# ★2023年 アルコール手指消毒剤使用量報告



★5月は使用量が増えた部署が少なく、各部署の手指衛生実施回数が3階病棟以外減少傾向にあります。